



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2024年11月9日 No.812

会社発足から6番目！ 1兆円超えの営業収益(単体) 社員の努力に満額回答で応える責任がある！

「2024年度年末手当」第2回団体交渉 東日本ユニオンの主張

★ 経営側のスタンスで語られた「もう一段の増収が必要」とは、どういうことか？
会社経営とすれば当たり前のことである！

何故、わざわざ年末手当の団体交渉の場であえて言うのか？

★ 会社の持続的発展や、生産性向上も当たり前のことである！

さらに加速させるのは社員1人ひとりである！

★ 単体の**営業収益が1兆円**を超えた！JR発足以降**6番目**の収益である！

経営側から**社員の努力の中身が語られないのはなぜなのか！？**

★ 中長期的な見通しが語られるが**期末手当はあくまでも一時金**である！

足元の業績は好調！半年間の**社員の成果に対する配分を行うべきだ！**

★ 職場では**1人2役、3役の働き方**をしている。

労働の質も上がり並々ならぬ努力をしている！

★ 私たちが「**全力**」で頑張っているにも**経営側に緊張感がない！**

輪軸組立データ改ざん、隠蔽による社会からの影響は大きい！

会社として重く受け止めるのではなく「**経営側**」として**重く受け止めるべきである！**

★ **32年ぶり**の1万円超の賃金改訂と言うが「**やっと1万円上がった**」である！

★ 当社の**魅力は期末手当6.0ヶ月以上の水準**であったが、最近はそうではない。
働きがいは「賃金」「手当」によって得られる！

今の「賃金」「手当」では、達成感を感じられない！

**ネガティブな主張ばかりを繰り返す経営側のみなさん
出し渋りは許されない！これが社員の本音だ！**

3.8ヶ月の支払いは体力は十分にある！満額回答を強く求める！